

2013年 トップに聞く

ACKグループ

廣谷 彰彦社長



12年を振り返って東日本大震災によって仙台の自社ビルが損傷を受け、その影響が前期の決算に影響した。12年は、その回復のための取り組みと、今期からス

タートした新たな中期経営計画の策定作業が重なり、緊張の1年であった。

新中期経営計画

昨年10月から、新中期経営計画「ACKG2013」をスタートし、順調に進捗している。計画のベースは若手社員が検討し、事業会社の社長で構成する検討委員会などでも検討して策定した。

新中期経営計画では、自らが社会を創造する担

い手となる「社会インフラ創造企業」を掲げ、受動型ビジネスから主導型ビジネスに転換する「変革(チェンジ)」と、自らが投資し、事業者とし

主導型ビジネスに転換へ

てインフラビジネスを推進する「挑戦(チャレンジ)」を打ち出している。基本方針としては、「強みの活用」をはじめ、「事業創造」「育成と連携」

を挙げている。

事業展開

基本方針を基にした事業展開で、「強みの活用」では、交通運輸事業や海外事業の強みを活かす

500億円を目標にしている。

また、重点化事業である、民間開発、再生可能エネルギー・スマートコミュニティ、防災、イン

重点化プロジェクトが設定されている。

海外事業に関しては、東南アジア等に新たに現地法人を2〜3か所設置することを考えている。また、今後は、アフリカでの事業展開を視野に入れている。

人材育成等
基本方針の「育成と連携」では、海外事業の展開を図るためにも、国内の人材をはじめ、ローカルの人材の育成も進め、

これらに更に力を注ぐ。「事業創造」では、技術の深化や新たな事業創造により、公共から民間へ、更に海外事業にも注力し、2020年の売上高

フラ保全・運営管理、交通高度化・総合化、海外新規開拓の6つについて、更に重点化プロジェクトを設定して取り組みを進める。すでに40程の

キャリア採用も行うなどして、2020年までにグローバル人材を150人以上を増やすことを計画している。
そのためにも、さまざまな研修コースを用意している。また、グループ内の連携を活性化させてシナジー効果を高めるとともに、グループ内の若手社員の発想を採用し、積極的に事業に活かしていきたい。